



『だれも知らない小さな国』

佐藤 さとる／作
村上 勉／絵 講談社

Y
サト

小学校三年生の夏休み、主人公が見つけたのは、「こぼしさま」と呼ばれる小さな人たちが住む、ふしぎな小山でした。大人になって、その小山をなつかしく思い出した彼は、何年ぶりかでそこをたずねて行きます。そして、いつしか彼は、子どもころのふしぎな思い出をもつ小山を自分のものにしたいと思うようになります。

小山に小屋をたてた彼の前に姿を現したのは、子どもころに見かけた小さな人たちでした。そして、小さな人たちは彼に、自分たちがこの小山で静かにくらしていくための味方になってくれるようにたのむのです。

静かな日常の生活の中で起きる、ほのぼのとしたファンタジーです。



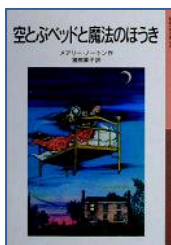
『つくも神』

伊藤 遊／作
岡本 順／絵 ポプラ社

Y
イト

マンションのゴミ置き場で火事があった翌日、ほのかはエレベーターの中にこわい顔をした置物があるのを見つけました。ぎょろっとした目に、つりあがった太い眉、顔は濃いあごひげにおおわれ、口はへの字にまがっています。そして、右手には棒のようなものを持っていました。しかし、この奇妙な置物は、すぐに姿を消してしまいます。それからというもの、ほのかと、中学生になって荒れ始めた兄の雄一のまわりでは、次々と不思議な出来事が巻き起こるのです。ある時、隣の家の土蔵に何か秘密があると感じたほのかは、勇気をふりしぼり、おばあさんをたずねます。すると、おばあさんは観念したかのように、ゆっくりと話し始めました。

人と人、そして物とのつながりの大切さを描いた、心温まる物語です。



『空とぶベッドと魔法のほうき』

メアリー・ノートン／作
猪熊 葉子／訳 岩波書店

GY
ノト

夏休みにおばさんの家にあずけられた、ケアリー・チャールズ・ポールの三兄弟たちは、音楽教師をしているプライスさんと出会いました。しかしこのプライスさん、どこにでもいそうな、しとやかな女性なのですが、実は魔法を勉強中の魔女だったのです。子どもたちは、プライスさんの秘密を守るかわりに、行きたいと願った所へ連れて行ってくれる魔法を、ベッドにかけてもらいました。そして、魔法のベッドにのって、冒険に出発しました。ところが、ロンドンでは警察につかまって連行されたり、南の島では原住民に捕らわれたり、トラブル続き！そして、もう一度だけという約束で、過去の世界に行くことに。

魔女プライスさんと子どもたちとのユーモアたっぷりの冒険物語です。悪い魔女になりきれない、人間的な魔女プライスさんがとても魅力的です。



『晴れた日は図書館へいこう』

緑川 聖司／作
宮嶋 康子／絵 小峰書店

Y
ミド

小学5年生のしおりは本を読むことが大好きな女の子。しおりの日課はいとこの美弥子が司書として働く雲峰市立図書館に通うことです。

ある日、しおりは図書館で迷子の女の子カナに出会います。カナちゃんは仕事で図書館に来ているお母さんを探していました。カナちゃんはしおりが借りようとしていた『魔女たちの静かな夜』をうばいと「わたしの本」といって本の表紙をニコニコしながら眺めてます。しかし、「小学上級から」と書いてある本を3歳ぐらいのカナちゃんに読めるはずがないのに……。

その他にも、図書館では、60年前に貸し出した本を返却に来た少年、次々と行方不明になる本の謎などちょっと変わった事件が起こります。

きっと、図書館に行くことが楽しくなる1冊です。